

災害のこと、私たちが今知っておくこと ～ 東日本大震災から1年を経て～



写真上(左)／講師 西田名誉教授 写真上(右)／4団体を代表してあいさつする五十嵐会長
写真下(左から)／熱心に講師の話を聴く参加者／「ほうさいカフェ」非常食と災害パネルの展示

3月28日(水)、連合鳥取・鳥取県労働者福祉協議会・中国労働金庫鳥取県営業本部・全労済鳥取県本部の4団体の主催で、東日本大震災から1年が経過した中、東海・東南海地震、首都直下型地震等の報道で社会全体が地震をはじめとするあらゆる災害への関心をもっている現状を踏まえ、災害対策や減災について知識を高めるとともに、身を守ることの大切さを意識する機会として「防災学習会」を開催し、各構成組織から116名が参加し、防災についての学習を深めました。

冒頭、主催者4団体を代表して連合鳥取の五十嵐会長が開催趣旨についてあいさつし、早速講演に入りました。

講演は、講師に放送大学鳥取学習センター所長の西田良平鳥取大学名誉教授(理学博士)を招き、「鳥取県の地震災害に備えて」との演題でお話しいただきました。

昨年3月11日14時46分、三陸沖で発生したマグニチュード9の地震「2011年東北地方太平洋沖地震(最大震度7)」のメカニズムについての説明では、この地震は逆断層型で太平洋プレートとの境界で発生し、震源域が広範囲(長さ400～450km、幅200km)にわたっているとのことでした。また、地震動は1000km以上離れている西日本まで広がり、鳥取市でも震度2を記録したとの説明等、地震と津波との関連についての因果関係を解かりやすく説明いただきました。

東日本大震災からの教訓・検証や災害地の防災教育、鳥取県

及び周辺地域の地震分布、山陰地域の津波地震想定(鳥取県検討中)についても触れ、海底地震による津波への対処方法では、地震後10分もせずに大津波が襲来する(第1波4分、第2波10分)ので迅速な高台への避難、長時間の警戒が必要であり、油断すると大きな被害となることでした。

鳥取県防災計画(地震対策)についての説明では、ハザードマップの作成の紹介とともに、地震災害を軽減するには、①自助(家庭の防災対策を自己責任で立てる)②共助(地域の防災対策を地域の責任で立てる)③公助(行政の防災計画を行政が立て実施する)の必要性を示し、地震対策は防災計画を立て、災害を最小限にする取り組みが重要であると話されました。

参加者4名からの質疑にも西田先生から丁寧に説明をいただき、地震災害に備える準備・対策等について再認識し、防災学習会を閉会しました。

■ 2012春季生活闘争特集 ■

連合鳥取2012春季生活闘争・要求状況一覧表 (2012.3.28現在)

・調査対象組合 138組合賃金要求 ・登録組合 57組合 ・要求未提出だが体系維持分を労使確認 12組合
 ・賃金要求提出組合 40組合 (平均方式36組合・個別A方式1組合・個別B方式3組合)
 ・平均賃上げ方式／単純平均

従業員規模	区 分	組 合 数	組合員数 (人)	体系維持相当分 (円)	賃金改善 (円)	合 計 額 (円)	率 (%)
	計	34	6,029	4,201	3,085	5,832	2.62
	300人以上	17	4,388	4,335	3,750	6,482	2.75
	299-100人	9	1,300	3,031	2,947	5,571	2.61
	99人以下	8	341	5,659	1,656	4,907	2.40

官民一体となって春闘に取り組もう ―春闘支援カンパ―

3月29日(木)、毎年「春闘支援カンパ」に取り組んでいただいている公務員関係労組(自治労、県教組、国公総連、全水道、鳥取市立病院労働組合)から、民間の中小地場の春闘勝利に向けたカンパ金が付されました。

今年の春闘は、東日本大震災や歴史的な円高に伴う経営環境の悪化の影響により依然として厳しい環境下での春闘ではありますが、官民一致団結して労働条件改善に取り組んでいきましょう。ありがとうございました。



社会や職場の「絆」と「連帯」の復元を広く訴える ―東・中・西部地協春闘街宣活動を実施―

連合鳥取は、復興・再生の先に「安心社会」の実現を見据え、「すべての働くものの『絆』と『連帯』を深めることで新しい社会のかたちを切り拓いていこう」と広く県民のみなさんに訴えるため、「2012春季生活闘争街宣活動」をスタートさせました。

春季生活闘争中の3月から4月にかけて、各地協の街宣車でPR活動や、連合鳥取役員や地協役員が街角に立って通勤・通学途中のみなさんに熱く訴えていきます。



雨の中訴える五十嵐会長(右)

被災地を忘れずともに歩もう ―2012春闘勝利総決起集会(中部・西部)で特別決議―

3月9日(金)夕方、冷たい雨と風の中、すべての労働者の処遇改善に向け、中部・西部それぞれの地協主催による「春季生活闘争勝利総決起集会」を開催しました。中部会場の鳥取県立倉吉体育文化会館には600人、西部会場の米子市文化ホール前広場には800人が結集しました。

この集会では、2011年3月11日に発生した東日本大震災より1年を迎えるにあたり、『「復興元年」東日本大震災1周年にあたっての特別決議』を採択しました。また、東部での集会(3月2日)と同様に「集会アピール」「3.8国際女性デーアピール」も採択されました。



〈中部・デモ行進〉



〈西部会場の様子〉

「復興元年」東日本大震災1周年にあたっての特別決議 ～被災地を忘れず、ともに歩もう！～

(抜粋)

2011年3月11日地震、津波そして原発事故という未曾有の複合的大災害となった東日本大震災は発生から1年目を迎えようとしている。

被災地では、復旧から復興・再生に向けた懸命な努力が続けられているが、その道のりは長く険しい。だからこそ、被災地のみなさんが一日も早く、安心して希望をもてる生活を取り戻すことができるよう、オールジャパンの英知と底力を結集した息の長い取り組みが求められている。

そのために、被災から1年を経た被災地の「今」を知り、被災地・被災者と寄り添いながら、職場や家族、地域へ「共感」の輪を広げる努力を惜しまない。

東日本大震災で再認識した「絆」や「支え合い」の意義は、被災地・被災者の痛みと、復興・再生に必要な負担を国民全体で分かち合うことにある。また、一人ひとりが「何ができるのか」を考え行動することが大切である。連合はその先頭に立ち、悲しみ苦しみを乗り越えて生活基盤・地域社会の再建にむけて奮闘するすべての被災者と被災地を、引き続き全力で支援していく。

“つながろう日本!” 私たち連合は、これからも被災地とともに歩むことをここに決議する。

2012年3月9日

オールジャパン体制で国難に立ち向かおう ―鳥取県知事要請を実施―

大震災から1年が経過した中、未だ被災地のがれきの処理にいたっては手つかずの状態であり、復興・再生の妨げの要因の一つともなっています。連合は「復興・再生に全力を尽くし『働くことを軸とする安心社会』につなげよう」を掲げ、災害ボランティア派遣をはじめとして各種取り組みを進めてきていますが、被災地の復興・再生を図り、日本全体の再生につなげるためにもがれきの処理は喫緊かつ最重要な課題の一つであると考えています。

連合鳥取は第4回執行委員会(2012.3.29)において、「鳥取県に対し、『国難』への対応にあたってはオールジャパン体制で臨み、それぞれの果たすべき役割を意識することが重要であると示すとともに、一刻も早い被災地の災害廃棄物(安全性を確保した)受け入れの実現に向けた最善策の取り組み強化を申し入れる」ことを確認しました。

それを受け、3月30日(金)、五十嵐会長が早速、鳥取県に出向き、藤井喜臣副知事に要請書を手交しました。



要請内容の説明をする五十嵐会長(右)

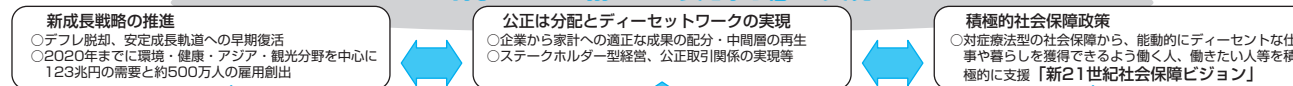
全世代型支援の社会保障で「働くことを軸とする安心社会」を実現させよう 連合のめざす「税と社会保障の一体改革」とは



不安定雇用や貧困が拡大して社会の支え手が縮小し、財政悪化につながり、社会保障の機能も低下しています。その不安感が、さらに経済の低迷を招くという悪循環!これを断ち切る具体的ビジョンを連合は提起しています。

「働くことを軸とする安心社会」を支える、社会保障と税の一体改革

「働くことを軸とする安心社会」の実現

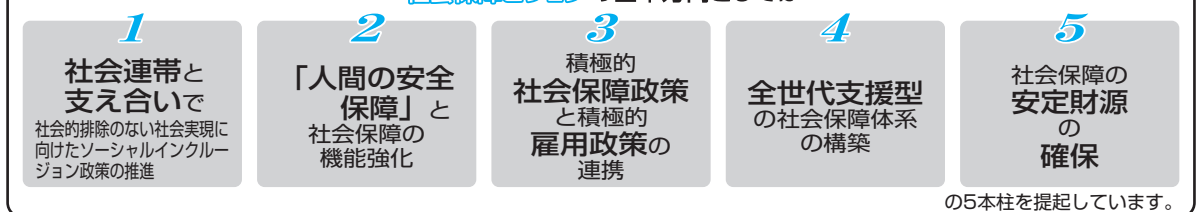


それらを支えるための税財政の抜本改革

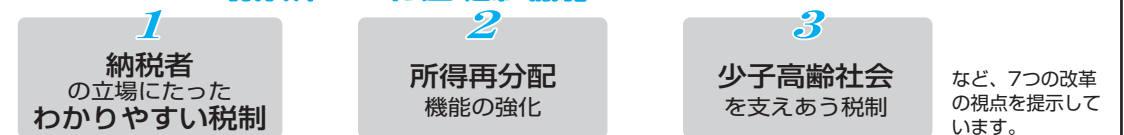
○税の財源調節能力の回復と再分配機能の強化を同時に実現する税制改革をはかり、その財源を新成長戦略に資する経済政策や積極的社会保障政策等に集中的に投入「第3次税制改革基本大綱」

「新21世紀社会保障ビジョン」と「第3次税制改革基本大綱」のポイント

社会保障ビジョンの基本方向としては



税制改革では、『公正・連帯・納得』の改革理念に基づいて



働きやすい職場をつくろう ―東部地協「労組対象研修会」を開催―

連合鳥取東部地協は、3月6日(火)鳥取県労働会館2F会議室において各産別から28名参加のもと、「労働組合対象研修会」を開催しました。

今回の研修会では、人権啓発活動の一環として「職場のハラスメントと人権」をテーマに、講師として鳥取市人権推進課から福井恵子さんをお招きし、職場でのハラスメント防止の必要性やパワーハラスメントの実態とその定義などについてご講演いただき、働きやすい職場づくりに向けて参加者全員で理解を深めました。



パワーハラスメントとは？

同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性(※)を背景に、業務の適正な範囲を超えて「精神的・身体的苦痛を与える」または「職場環境を悪化させる」行為をいいます。

※上司から部下に行われるものだけでなく、先輩・後輩間、さらには部下から上司に対して様々な優位性を背景に行われるものも含まれます。

平成24年1月13日 厚生労働省発表

Information

ー♪メーデー大会に 開催日/4月29日(日) 参加しよう♪ー

中央(西部)

- 〈集合・受付〉9時00分～9時30分 米子市公会堂広場
 〈デモ行進〉9時30分～ 国道9号線～米子駅前通りコース
 国道181号線～西部総合事務所通りコース
 〈式典・イベント〉10時15分スタート(デモ行進到着後)
 JR米子駅前だんだん広場
 ◇地域スローガン 「次世代にわたそう 安全・安心」
 ◇復興スローガン 「つながろう NIPPON 連合」
 ◇復興イベント〈祭典と歌のお姉さんのコラボ(予定)〉
 ○歌のお姉さんと遊ぼう(2ステージ予定)
 ○「被災者の心に寄り添う通年支援活動を展開しよう」
 JPRカタログ通販申込書の回収
 参加者へのカタログ配布と協力要請
 被災県の名産・特産品大抽選会
 ○子どもたちからのメーデー宣言

東部地域

- 〈集合〉9時00分～ 〈開会〉9時30分～
 〈場所〉とりぎん文化会館 梨花ホール
 〈式典・イベント〉
 ◇アトラクション・因幡の傘踊り
 ◇抽選会 ◇プラカード審査&表彰
 ◇物品販売コーナー
 (単組商品&若手県物産販売を予定)
 ◇デモ行進

◎エコ活動 / 各会場に、使用済み割り箸回収BOXとペットボトルキャップ回収BOXを設置し、回収します。どちらも、洗浄して乾燥してからお持ち帰りください。
 (エコキャップは必ずシールを剥がしてください)

◎メーデー川柳の表彰 / メーデー川柳の表彰を各会場で行います。

中部地域

- 〈集合〉9時00分～ 〈開会〉9時30分～
 〈場所〉飛天夢広場
 〈式典・イベント〉
 ◇お楽しみ抽選会
 ◇プラカード審査&表彰
 ◇産別・単組協力コーナー
 ◇デモ行進
 ◇シュウクリーム・駄菓子(子ども限定)プレゼント

産別・単組 活動紹介

◆ 国税労組 ◆

国税労組は、税務署で働く組合員で組織された労働組合です。
 鳥取県内には、鳥取市、倉吉市、米子市に支部があり、約120名の組合員で組織しています。

わたしたちは、組合員が意欲を持って働くことができるようにという思いで、生活水準の向上や労働条件の改善をめざして様々な取り組みをしています。

また、若手のための学習活動や組合員相互の交流を図るための活動も行っています。

具体的には、職場へ配属されて1年目の職員を対象に、組合が行っている活動やこれまでの組合の歴史などについて理解するための学習会を開催しています。

さらに、今年は、組合員の親睦を深めるため中国五県の支部が一同に会したソフトボール大会を開催することとしています。これからも全組合員が一体となって様々な問題に取り組んでいきたいと思っています。



新規加入者集会の参加者

てんじんこらむ

今日も会社のパソコンに災害事例速報のメールがきた。我社はグループ、関係会社で発生した災害は全社、グループ会社に配信され、各工場で各部署に配信される。災害の内容を確認すると同様の災害は過去にもあったにもかかわらず、なぜ機械を止めたに作業したのだろうか？なぜ決めた手順でしなかったのだろうか？と思う。被災した人も怪我をしたかったわけではなかったはず。労働災害を無くすには「自分の体は自分で守る」という意識だけでは無くならない。設備の安全化も必要である。設備改善をしても、個人の安全意識の欠如、安全に対する職場風土、また職場コミュニケーションが不足していれば、どのような安全対策も無効となる。安全に関してハード面、ソフト面ともに必要であることは言うまでもない。幣組では、このソフト面をいかに充実させるかを課題として安全活動をしている▼しかし、どうしてこんなことを・・・というだけなく、そんなことをしてしまっただけでなく、そんなことを考えなければいけないと思う。その為には職場の現状を知っておく必要がある。災害が発生してからでなく、常日頃から職場に足を運び、直接対話の機会を増やしていかなければいけないと思う。「安全無災害に特効薬はない！」という言葉をよく聞く。地道な活動が大切であり、無災害達成は簡単なことではないのはわかっているが、組合役員全員の知恵を絞る、組合員全員の協力のものと、今年は是非とも完全無災害を達成したい。

(M・H)



再生紙を使用しています